

(様式2(1))

事業所名 グループホームみどり

作成日: 令和 4年 3月 2日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の場での意見交換は出来ているが、当日参加されていない家族とは情報共有が出来ていない。	家族との情報共有を行い、グループホームの活動を理解してもらう。	運営推進会議議事録を家族に送付。又、会議内容等についての意見を募り、運営推進会議に反映させる。	3ヶ月
2	6	身体拘束防止マニュアルに防止委員会の設置目的が入っていない。委員会や研修の内容が他の会議の中に紛れている。	設置の目的を掲げ職員が目指す実践を明確にする。身体拘束防止の流れが明確になるように資料を整理する。	指針の中に身体拘束防止の目的を明示する。身体拘束防止委員会の実施状況や研修の記録を一つにまとめ、体系的に見ることが出来るように整理する。	6ヶ月
3	26	個別の課題については会議等で検討出来ているが、モニタリングや再アセスメントに関連付けていない。	モニタリングや再アセスメントを介護計画に反映できるような流れを作る。	各種記録が個別の課題分析に繋がるように、記録システムを導入する。各種記録の項目を再検討し計画と記録の繋がりが明確になるように工夫する。	12ヶ月
4	8	成年後見制度・権利擁護について職員の理解度にばらつきがある。	成年後見制度・権利擁護について一定の知識を持ち家族等の相談に対応できるようになる。	内部研修や外部研修を受け、制度についての理解を深める。研修内容を共有し一定の知識を持てるようにする。	12ヶ月
5	35	訓練結果の振り返り等の記録が無いので、参加した職員以外に訓練の状況が伝わりにくい。	職員全員が災害対策について同じレベルの知識を有することが出来る。	災害訓練の実施報告書を作成し、知識を共有する。又、参加していない職員にも実地研修を行い、災害時の対応方法を身につける。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。